

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	グループホーム 潮風		
所在地	三重県津市阿漕町津興214-2		
自己評価作成日	平成22年11月 5日	評価結果市町提出日	平成23年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501418&amp;SCD=320">http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501418&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22 年 11 月 25 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしく生活する。心通い合う、笑顔あふれる暮らし。オンリーワン支援を目指します。昔とった杵づかを個性として、大切な過去の貴重な体験や得意を發揮して頂く。役割を持つことにより、達成感や満足感を実感して頂く、自信の回復をする中で大家族の中での役割を担って頂き楽しく生活しています。名前は忘れていても、馴染みの顔がそこにあれば、いつもここに安心できる大家族であり、安楽な場所、我が家が(潮風)なのです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海岸に近い、のどかな住宅街にある平屋建ての一軒家で、周囲の住宅に溶け込み、違和感がない。周辺には広大な畑もあり、自然にも恵まれた環境にある。施設長が長年この地域の住民だったことから馴染みの人が多く、人脈を活かし、地域との交流が盛んに行われている。更に日常のおつきあいを深め、より強い絆で結ばれた相互扶助の関係作りに努力している。ホームでは一人ひとりがかけがえのないオンリーワンの精神で、その人がその人らしく暮らせるよう工夫し、お一人お一人に寄り添い共生しているアットホームな事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者個人の尊厳を第一とする中で、心通い合う介護、笑顔あふれる暮らしを大切にしている。ひとりひとりの気持ちに寄り添うことで我が家に居るようにゆったりと過ごして戴いている。	利用者もスタッフもかけがえないオンリーワンの精神で、一人ひとりの尊厳保持と一人ひとりの生き方に寄り添った関わりをし、共に笑顔で暮らせることを旨とし、地域との交流も深め、住民の一員としても暮らせる支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方、自治会、子供会、民生委員、保育園、幼稚園、介護施設、病院関係者の方々との交流を通して双方の理解を深めている。地域の中での潮風を認知して頂く中で、お互いが地域力になればと努めている。	近隣の方々との挨拶や対話はもとより、自治会、民生委員、子供会、保育園、幼稚園等と交流を深め往き来している。更に在宅介護関係者や認知症支援者、障害者施設等とも交流し、地域の方々が高齢になっても、認知症になっても安心して暮らせる街づくりをめざし、事業所もその一役が担えるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者を取り巻く環境について、専門的見地から自治会、民生委員、認知症を抱える家族等への働きかけ、介護保険のしくみ、認知症についての理解等学習会を開催する等地域の一員として、又専門職として貢献するように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	潮風の現状を知って頂く中で、地域の一員であることへの理解を深めていく。地域の中で潮風として協力させていただける事又協力をお願いしたい事等を話し合い実践していく中でよりよい施設運営を目指し地域力となっていけるように努めている。	偶数月の第3金曜日と定期化し開催している。自治会長、民生委員、市職員、家族の参加のもと、運営上の通達事項(危機管理体制、災害時の協力体制)や利用者の状況、サービス状況、評価報告等を通じて意見交換し、出された意見はサービス向上に活かしている。	日常生活上、或いは災害時等お互い助け、助けられる相互扶助の関係作りについて話し合いを重ねられることに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の通達、書類作成、提出方法等、詳細にわたり日常的に相談やアドバイス指導等を頂いている。又認知症サポーター養成講座等にも積極的に参加していただいている。	積極的に出かけたり、メール等を介して運営上の相談助言を受けたり、情報交換する等連携している。又、認知症サポーター講座の講師になる等、地域貢献にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等、行動を制限する行為は指定基準で禁止されている事、その具体的な例を挙げ確認している。一方で事故を未然に防ぐ為の、個々に応じた方法について、その都度検討しながら対応している。	総ての職員が理解している。日常の何気ない対応を通して見直す機会を作ったり、気づきを大切にし、リスクが予測される時には早めに家族と話し合い、安全性とQOLの確保の両面について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、法律の内容、課題、背景等を示し、虐待のない介護の徹底を図っている。又入居者の介護リスク等を全体的問題として捉え、介護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状の中では、対象者はないが、しくみについてはマニュアル等で理解しており、必要に応じて対応可能である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至るまでのプロセスの中で、ご本人御家族の思い、ご希望等を十分に伺い、そのひとつひとつに対してご理解頂けるよう、話し合いを深め、十分納得されたからの契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で、意見等を出して頂きやすいように声かけしている。面会の際には近況報告と合わせ御家族のその時々を聞いて頂いている。又潮風の方針を示し同意を得る中で意見の実現に向けて取り組むようにしている。	面会時や家族会、同意を得る事項説明時等を意見や思いの表出機会とし、出された意見は運営に反映させている。例えばコスト負担軽減について、オムツ支給制度の利用や、他の介護保険サービスについて説明し選択肢を示す等、家族の意に沿えるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、意見交換を密にして反映するようにしている。情報共有ノートを通じてその時々意見や提案、困りごとについてを記入、日常的に活用している。	日々フランクに話し合える環境にある。情報共有ノートには、ケアや業務について気づきやアイデアが詳細に書かれ、それらの情報を共有し共に検討しながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	苦手分野ある職員には、得意とする職員及び管理者が細かにサポートし、克服に向けた働き掛けを行う中で自信を積み上げ、自身のモチベーションが高められるように支援している。又頑張った職員が報われる給与体系になる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の介護力等が高められるように、その時々可能な方法で資質向上に向けての内部的な学習会、指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ協議会、グループホーム協議会、介護福祉士会、認知症と在宅介護を考える会等に所属、研修等に参加し資質の向上に努めたり、交流の機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆったりと傾聴するなかで、本人の気持ちを引き出し、アセスメントした情報も含めた中から、本人の願い、希望等を把握、生活の方法を話し合う中で信頼関係を築いていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用に至るまでの苦悩について、ゆったりと傾聴する中で不安に思っている事、求めている事を把握していく。又本音を吐き出していただけのような雰囲気作り、信頼関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えだけに捉われる事なく、話の中から問題点を把握するように心掛け、相談を傾聴する一方で、専門職としての見解を示し改善に向けて必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等、できる事は協働で行ない、共に仕事をする中で人生の先輩として学ばせて頂く事も多く、そのような機会を通して自信の回復、又生活力の喚起になるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者を中心とした交流の中で潮風を家族のように捉えて頂いており、手作りお菓子、料理、野菜等を頂く事も多く、温かい御家族との関わりを実感している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の様子、御家族の意見をお聞きしながら、又取り巻く環境等を勘案しながら出来る限り入居までの関係を大切にしている。中には、自宅近くの施設でもあり、毎週数人の友人が定期的に訪問され、以前と変わらぬ交流が復活している。	入居時に得た情報や家族からの情報を基に、関係継続支援に努めている。友人の定期的な訪問や家族との墓参り、外食外出、地域行事の参加等、又手紙や電話を利用した支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者9名と職員が共同生活を送っていく中で相性等を配慮しながら、自然に振舞える居心地の良さを優先している。良き話し相手、良き相談相手、良き理解者となるよう側面的な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、入所されている施設を訪問したりご家族が近況報告に来られたり、葬儀に参列する等、日常的に交流している。相談に来られたりすることも多く、その都度解消に向けての支援を心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントした意向の中から、又御家族の話の中から、本人のしたい事、どう生活したいと思っているか等を把握し、本人にとって最適な方法を引き出していけるように支援している。	家族から生活歴や利用者の生き方、暮らし方の情報を得ているので、本人にとって最適な方法を検討している。又、日頃の表情や行動、対話からニーズを察知したり、情報共有ノートにより、利用者の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴及び御家族からの情報により今まで慣れ親しんだ暮らし方を把握するように心掛け、生活に反映されるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方に応じた日課の中で、生活の喚起を図りながら、職員はさりげなく側面的な支援を心掛け、その時々々の希望を取り入れた生活が可能となるように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族がどう生活をして行きたいと思っていられるか、職員は細かな状態に応じた支援方法の検討を日々重ねながら、十分に話し合いを深め、本人らしい生活の実現に向けたプランニングを考案している。	担当者を中心に「この人のよりよい24時間の日課の過ごし方」の案を出すと共に、情報共有ノートに記された気づき等を基に、家族や職員で話し合い、よりよく暮らす為の計画を作成している。又、定期的な見直しをすると共に心身の変化がみられた時は随時見直し、現状に即した計画立案に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える中で、リスク管理するための情報の共有、特記の記録、個々の状態に応じた細やかな援助方法を常備し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその人らしく暮らせる、個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。少人数で家族的である為御家族との交流も深く、その都度最適な方法を御家族と話し合いながら、柔軟な対応ができる環境になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、民生委員、医療、福祉関係者、子供会、保育園、幼稚園等との交流を通して社会性の充実を図りながら、入居者の安全、安心して暮らせる環境を作り、楽しんで生活出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者、御家族のご意向を反映した上で協力医による定期往診及び24時間対応による随時の相談、往診体制をとっている。	ほとんどの方は協力医が主治医である。専門医は従来のかかりつけ医を継続している人もある。内科的な持病のある人の隔週往診や年1回の健康診断、随時の相談、往診も可能でターミナルにも協力的で安心できる医療体制が組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医院の看護師には、日常的に相談している。医師の所見等を含めたアドバイスがその都度あり、とても安心感の持てる体制を構築している。又地域の看護師との交流も多く情報交換をも密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族、医師、看護師、ソーシャルワーカー、病院関係者等との交流を日常的に行う中で、そうした時に最善な対応が出来るような、関係づくりを構築するように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、日頃から御家族の方、主治医との話し合いを重ね、万が一に備えている。並行して個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、最善なターミナルケアに向けての意思統一を図っている。	指針が作成されており、入居時に説明されている。又、その時々状況に応じて、医師・家族が話し合い、方針を定め、職員も共有している。家族の宿泊付き添いや施設長も宿泊し、家族ケアにも努めながら医師・スタッフと共に在宅の如く見守り、体制を整え、看取りケアをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の身体状況については、各職員が日常的に把握し、予測される事態に備えている。一方であわてず的確な行動、適切な対応が(応急処置等を含む)が可能となるよう学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法は、マニュアル化して施設内の要所、要所に掲示してある。又いち早く避難できる方法を生活の中で実践している。運営推進会議を利用して、その時々入居者の状況を広く知って頂き、緊急時の協力をお願いしている。	自主的にマニュアルに沿った初期対応ができるよう頻りに訓練している。来年3月までに全館スプリンクラーが設置予定である。煙探知機も各居室にあり、備蓄もされている。地域との協力体制については運営推進会議で話し合っているが、事業所訓練に参加して頂ける段階には至っていない。	話し合いを重ねられ、その蓄積結果に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー、プライド、人格の尊重については、十分職員間で意思統一を図り、個々に応じた、その人にふさわしい対応を心掛けている。	個人のプライド、プライバシーを尊重した対応に心掛けている。周辺症状だけを見ず、その人を見ること、相手は自分の鏡として自分の対応を振り返る事が出来るよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に寄り添いながら、その時々のお思いを共有、共感する中で意思表示しやすいようにさりげなく、側面的な働き掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自信を持って生活出来るよう、職員はさりげなく側面的に自立支援を工夫している。その日の身体の状態や気分、希望を取り入れた生活が可能となるような支援の実現に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば買物に同行したりと個別に対応している。外出困難な方に対しては身体の安楽を優先した方法を選びご家族の同意をえながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養だけに捉われるのではなく食事が楽しみとなるよう、希望も取り入れ献立を考え、大家族のように職員もテーブルを囲み会話しながらの食事をたのしんでいます。できる家事は協働しながら生活力の喚起に向けて支援している。	全員が準備や片づけに参加することは困難であるが、テーブルを拭いたり、食器を片づける等出来る範囲で協働している。介助を要する人も多いが、職員も共に食しなごやかである。日々リクエストに沿った食事が提供され、家族も面会時や宿泊時共に食して頂くようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、栄養配分、水分量、好み又主治医等の意見を勘案する中で摂取の目安を決め対応している。個々の口腔機能、好み等を配慮しながら、食事を楽しみとして頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の出来る方法で毎食後には必ず残渣物を除去、朝夕の歯磨き、うがい、口腔内の洗浄、義歯は洗浄し定期的にミルトン消毒等、個々の状態に応じた方法で口腔内の清潔保持につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方、ない方を問わず自然な排泄が可能となるように、特別な事情がない限り、日中はトイレを使用している。排泄パターンに応じて定期的及び随時に気配、訴え等細やかに対応している。	座位保持可能な限り排泄支援している。尿便意の有無に関わらず起床時や食前後等、タイミングを見て誘導する。下腹部のマッサージや手圧により排泄が見られたときは「あきらめないこと」や、自立支援の重要性について認識を深めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄サイクルを確認しセンナ茶、ヨーグルト等整腸作用のある物、又食事内容、水分摂取にも配慮している。トイレでの排泄を基本とし必要に応じて腹部マッサージ等自然な排泄リズムへの働き掛けに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、その人の性格、その日の気分、身体状況等を勘案しながらその都度対応している。清潔保持、爽快感等を視野に入れ、特別な事情がない限り毎日入浴している。	曜日や時間を定めず特別な事情がない限り、毎日入浴支援している。その人の性格や気分、身体状況に合わせて対応している。爽快感を得た後の「ありがとう」の言葉に励まされ、清潔保持や褥瘡予防の為に支援に力を入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い、思いの過ごし方がして頂けるように、あえて無理な行事や日課は予定せず、その日に応じた過ごし方を優先している。個々の眠りに合わせた就寝、起床を基本としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋にて薬効、薬害、服用方法等について確認し認識を深めている。又日常生活の関わりの中で微妙な変化を察知する視点を持ち、日々関わるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる処、出来ない処、過去の生活の仕方を把握する中で、好み、能力に応じた家事を選び自信の回復、自信の喚起へと繋げている。家事を分担し協働する事が大家族としての役割意識、連帯感、達成感にも繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は、出来る限り外気浴を心掛けている。近隣への散歩は日課となっており季節を感じて頂く機会としたり、近所の方とのふれあいの手段の一つでもある。地域の行事や保育園、幼稚園行事等も、外出、交流の良い機会となっている。	天候のよい日は散歩は日課であり、車椅子の方も同様に出かける。玄関前や洗濯干し場のベンチでお茶を楽しむこともある。保育園、幼稚園への訪問やみかんやイチゴ・枇杷・ブドウ狩り、花見、買い物、外食等頻りに外出支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、御家族の意向に合わせて対応している。お小遣い程度を自身で管理し買物で使用される方もみえる。自身で管理しているという満足感を持って頂けるよう、保管方法を見守りながら側面的な自立支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族、知人等との交流を大切にして頂けるよう、御家族、知人との連携を密にし、活発な交流が可能となるよう側面的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビングは思い思いに過ごせるような空間作り、邪魔にならない音量でのBGMを流し柔らかな癒しの空間となっている。観たい時に、観たい番組が観られるスペースもある。玄関、廊下、居室には個々の思い出の写真、作品等が掲示しており、満足そうに眺めていられる。	居間兼食堂は広く明るい。要所要所に一人用や横になれるソファがおかれ、好きなところでくつろげるようになっている。車椅子の方でも居間はソファで過ごして頂けるよう沈み込まない構造のものが準備されている。食事作りの台所風景や新聞を読む人、雑誌を読む人、雑談しながらテレビを見る人達に家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには入居者、ご家族、職員との交流が楽しめる空間があり、家族的な雰囲気の中で自由にくつろいで頂いている。独りになりたい時は廊下のソファで過ごしたり、自室でのんびりされたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものこだわりのある物を個別に使用して頂いたり、ご本人が違和感なく落ち着いた気持ちで生活して頂けるような居室作りを本人、ご家族と検討し実現している。	一人ひとりの状況を個性に合わせてベッドの配置も様々で、安全性と居心地の良さに配慮している。備え付けのタンスも固定されている。馴染みの衣服や小物、手作りの作品等が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活すべての面において、個々のできる処、できない処の詳細を把握する中で、状態に応じた側面的な対応を工夫している。又安全面残存機能を勘案した上で、個々の身体機能に応じた動線の確保等に努めている。		